

令和4年5月25日
保 育 部
教育委員会事務局

令和4年度の乳幼児教育支援センターの取組みについて

1 主 旨

令和3年12月に区の乳幼児期の教育・保育の推進拠点として運営を開始した乳幼児教育支援センターにおいては、公私立や幼稚園・保育所等の枠を超えて、区内の教育・保育関係者が共有すべき方向性を示した「～私たちの教育・保育をもっと楽しく！～世田谷区教育・保育実践コンパス」（以下「実践コンパス」という。）の現場への浸透を図るため、説明会や意見交換会を実施してきた。

こうした令和3年度の取組状況を踏まえて、「世田谷区立教育総合センター運営計画（令和3年3月）」における各重点取組項目に関わる乳幼児教育支援センターの令和4年度の取組みについて報告する。

2 取組状況

（1）乳幼児期の教育・保育の充実・発展

① 乳幼児教育支援センター主催研修の実施

「実践コンパス」に示す考え方等を踏まえ、区内保育者の指導力、専門性の維持・向上等を目的として各種研修を実施する。

※別紙1参照

② 実践充実コーディネーターの派遣

「実践コンパス」を活用して各幼稚園・保育所等が自園の実践を振り返り、自己評価の取組みを進めていくことを支援していくために、乳幼児教育支援センターを拠点に学識経験者等の専門人材を担い手とする「実践充実コーディネーター」を派遣し、助言等を行う。

※別紙2参照

③ 「学び舎」への参加

中学校区を単位に地域とともに子どもを育てる教育を目指す「学び舎」への幼稚園・保育所等の参加を徐々に拡大し、「実践コンパス」に掲げる施設の種別や公私立の枠を超えた連携や幼・保・小・中の連携、義務教育との円滑な接続を促進する。

※別紙3参照

④ 乳幼児期の教育・保育の実践充実に向けたモデル研究

区は、「実践コンパス」を活用した幼稚園・保育所等の取組みを支援する。その一環として、各園が「実践コンパス」を活用した実践に取り組むうえで、参考とな

る事例を共有していくために、モデルとなる実践研究を実施する。

※別紙4参照

(2) 乳幼児の資質・能力を育む環境づくり

「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」(以下「幼保ビジョン」という。)等を踏まえ、子どもたちが様々な「体験」等を通して、非認知的能力等の「これからの社会を生き抜く力」の基礎を培うことのできる環境の構築を図る。

令和4年度については、ICT教材も活用しながら、子どもたちの言葉に対する感覚や表現する力を養う「言葉の力」育成プログラムの実施や、区内大学等と連携した文化・芸術体験事業の取組みなどを通じて、世田谷の子どもたちが新たな時代を切り開くための資質・能力の向上につなげていく。

※別紙4参照

(3) 家庭教育の支援

子どもの健やかな成長にとって、家庭の教育力・養育力の向上が重要である。令和4年度においては、地域団体等と連携し、家庭教育・子育て支援に係る講座・講演会を実施するとともに、家庭教育、子育て支援等の外部人材を活用した相談対応に取り組むなど、保護者の不安軽減や乳幼児期からの教育・保育に関する理解促進などの「家庭教育の支援」に向けた取組みを実施していく予定である。

3 今後の展開

令和4年度の取組みの状況を踏まえ、令和5年度以降も「実践コンパス」の内容を軸とした研修等による人材育成や、「学び舎」の仕組みを活用した公私立幼稚園・保育所等の連携の促進及び就学前教育・保育と小学校以降の学校教育の円滑な接続、多様な「体験」を通じた乳幼児の資質・能力を育む環境づくりなどの取組みを強化していく。

さらに、各園の実践事例を共有化するために、好事例や先進的事例の情報発信を行うなど、乳幼児教育支援センターを拠点として、区全体の乳幼児期の教育・保育の充実を図っていく。

乳幼児教育支援センター主催研修の実施

1 取組の趣旨・目的

「実践コンパス」に示す考え方を踏まえ、施設の種別を超えて、区内保育者の指導力、専門性の維持・向上をめざし、区全体の乳幼児期の教育・保育の質の向上を図るため各種研修を実施する。

2 研修一覧（研修の実施予定回数 19回）

	研修名	研修分野	対象	開催方法	募集人数	日時	講師名
キャリアステップ研修	初任研修	初任者研修 (保幼小中合同)	新採(教)職員	オンライン	510	7/21(木)午前	佐々木 掌子(明治大学)
	中堅研修 (基礎)	乳児保育	概ね3年以上の経験者	集合	60	7/28(木)午後 11/29(火)全日	西 智子(元日本女子大学)
		幼児教育	概ね3年以上の経験者	集合	60	8/1(月)午後 11/15(火)終日	田澤 里喜(玉川大学) 若月 芳浩(玉川大学)
		保護者支援	概ね3年以上の経験者	集合	60	7/4(月)午後 10/31(月)全日	園田 巖(京都市大学)
		障害児保育	概ね3年以上の経験者	集合	60	5/30 午後 9/26 全日	福岡 寿 (日本相談支援専門員協会顧問)
	中堅研修 (発展)	中堅研修(発展)	10年以上主任級まで	集合	80	8/3(水)午後	岩田恵子(玉川大学)
管理職研修	管理職研修 (コンパスの理解と活用)	園長又は副園長・主任	ハイブリット	500	7/12(火)午後	無藤隆(白梅学園大学名誉教授) 大豆生田啓友(玉川大学)	
分野別研修	教育・保育の評価	園評価研修(基礎編)	全職員	オンライン	200	5/26(木)午後	田澤里喜(玉川大学)
		園評価研修(実践編)	リーダー層	集合	80	①7/22(金)午後 ②8/30(火)午後 ③10/28(金)午後	石井章仁(大妻女子大学) 遠藤純子(昭和女子大学)
	保育の基本	発達と保育 ※4回シリーズ	全職員	オンライン・集合	80	①5/25(水)午後 ②8/25(木)午後 ③9/12(月)午後 ④12/12(月)午後	無藤隆①④(白梅大学) 古賀松香③④(京都教育大学) 荒牧美佐子②④(目白大学)

3 研修受講申込人数（令和4年5月20日時点）

区立 幼稚園※1	私立 幼稚園	区立 保育園	私立 保育園※2	合計
34人	43人	443人	487人	1,007人

※1 区立認定こども園含む

※2 私立認定こども園及び認可外保育施設含む

実践充実コーディネーターの派遣

1 取組みの趣旨・目的

「実践コンパス」を活用して各幼稚園・保育所等が自園の実践を振り返り、園の強みや課題を見出し、よりよい教育・保育の実践を進めていく等の自己評価の取組みを支援していくために、乳幼児教育支援センターを拠点として学識経験者等の専門人材である「実践充実コーディネーター」（以下「コーディネーター」という。）を派遣し、助言等を行う。

2 コーディネーターの役割（支援の姿勢）

- 支持的・協同的な姿勢による支援
- 実効性・継続性のある取組みに向けた支援
- 園の主体性・自律性を育む支援

3 コーディネーターの関わり方

コーディネーター（原則2名1組）が各園を訪問し、教育・保育の状況を確認する。そのうえで、園長、副園長や保育者と相談しながら、目標の立て方、各園の状況に合った自己評価の具体的取組み（評価の方法等）や、自己評価結果の取りまとめ方や公表の対象・方法等を決定し、園の取組みを支援する。

【コーディネーターの関わり方の例】

- 園の状況の確認
 - ・園のよいところや強み、自己評価に活用可能な取組みの確認
- 評価の基本的な考えの共有
- 振り返り・自己評価の取組み支援
 - ・保育見学、職員会議への参加とそのまとめへの助言、評価の観点や項目づくりに関する助言、公開保育を通じた自己評価支援 等

4 コーディネーター派遣頻度 1園あたり2～3回

5 各園の取組み

- 実践コンパスを活用した、実践の振り返り、園の保育の自己評価
- 自己評価結果の公表

6 コーディネーター派遣予定施設数（令和4年5月20日時点）

区立 幼稚園	私立 幼稚園	区立 保育園	私立 保育園	合計
1園	1園	8園	4園	14園

「学び舎」への参加

1 取組みの趣旨・目的

世田谷区では、従来から乳幼児期の教育・保育と小学校教育との円滑な接続のためにアプローチ・スタートカリキュラムの実施など様々な取組みを進めてきた。

今後は、乳幼児教育支援センターを中心として、中学校区を単位に地域とともに子どもを育てる教育をめざす「学び舎」への幼稚園・保育所等の参加を徐々に拡大し、「実践コンパス」に掲げる施設の種別や公私立の枠を超えた交流・連携活動を一層促進するとともに、乳幼児期の教育・保育から小学校以降の教育活動への円滑な接続を図る。

2 「学び舎」の変遷

中学校区域を単位として近隣の区立小・中学校で構成し、各学校と地域とが一体となって質の高い教育活動を進めていくための世田谷区独自の仕組みとして始まる

区立小学校

区立中学校

学習指導要領や幼稚園教育要領等の改訂を踏まえ、令和2年度より、乳幼児期の教育・保育から学校教育へ連続した取組みを進めるため「学び舎」に区立幼稚園が参加

区立小学校

区立中学校

区立幼稚園

「実践コンパス」に掲げる施設の種別や公私立の枠を超えた連携や幼・保・小の連携、就学前教育・保育と義務教育との円滑な接続を一層促進するために、令和4年度より、公私立保育園、私立幼稚園に参加対象を拡大

区立小学校

区立中学校

区立幼稚園

区立保育園

私立幼稚園

私立保育園

3 「学び舎」での取組みの例

- 「実践コンパス」等を活用した教育・保育活動
- 幼・保・小・中合同の「学び舎」研修会・研究会等の実施
- 就学前の教育・保育と小学校以降の教育との円滑な接続の実現に向けた子ども同士、教員と保育者、保護者と教員等の交流会
- 小学校と幼稚園・保育所等との相互における、運動会等の行事への参加や授業等の参観などを通じた連携協力

※ 各「学び舎」の実際の具体的取組みは「学び舎」内で相談して決定

4 「学び舎」への参加施設数（令和4年5月20日時点）

区立 幼稚園	私立 幼稚園	区立 保育園	私立 保育園※	合計
8園	3園	46園	39園	96園

※ 認可外保育施設含む

乳幼児期の教育・保育の実践充実や乳幼児の資質・能力を育む環境づくり を目的としたモデル研究

1 取組みの趣旨・目的

世田谷区教育委員会においては、従来から、研究指定校を設置し、教育ビジョンの具現化のために、様々な教育課題を研究し、成果を教育活動に反映させてきた。

このたび、区内の乳幼児教育・保育関係者が共有する基本方針として作成した「実践コンパス」の基本的な考え方や視点などを現場の教育・保育において効果的に活用することなどにより、乳幼児教育・保育の質の向上に向けて、先導的に取り組んでいく園をモデル園として選定し、乳幼児教育支援センターが支援することとする。

選定されたモデル園においては、当該園の保育者が主体となり、日常の教育・保育を実践する中で、モデルとなる実践研究に取り組んでいく。また、乳幼児教育支援センターでは、専門人材の派遣や研究実施園、学び舎の連絡会の開催等により支援するとともに、その研究結果の発表や研究内容の共有化の機会を設けることで、区内の乳幼児教育・保育現場への実践コンパスの浸透を図っていくこととする。

2 研究テーマ

(1) 「学び舎」を起点とした、保・幼・小連携の充実

就学前教育と区立小・中学校の円滑な接続のモデルに関する研究(アプローチ・スタートカリキュラムの見直し等)や就学前教育段階から義務教育卒業時までの系統的なキャリア教育に関する研究など、「学び舎」の仕組みを活用した保・幼・小の連携の促進につながるモデル研究を実施する。

具体的な研究内容については、研究に取り組む「学び舎」で主体的に決定する。また、学識経験者等の専門人材を派遣することなどにより、実践研究をサポートしていく。

(2) 園の教育・保育の評価

各園の教育・保育の質の向上を目的として、「実践コンパス」等を活用した自己評価に関するモデル研究を行う。具体的には、「実践コンパス」を踏まえたチェックリストの作成、記録・文書・写真等の自己評価への活用、教育・保育の評価に関する園内研修等により、各園における教育・保育の実践に関する課題を認識し、各園が主体的・自律的に教育・保育の質の向上に向けた取組みを継続的に行っていくようにする。

(3) 「言葉の力」育成プログラム

「実践コンパス」に掲げた「豊かな感性や表現する力、豊かな創造性」を育むこと

を目的として、幼稚園・保育所等において、子どもたちが経験したことや考えたことを、自分なりに表現し、「言葉」で伝え合う力を育成するためのモデル研究を実施する。

各園においてモデル研究を実施する過程においては、タブレット端末等のICT機器で作成した写真や動画を活用するなど、乳幼児期の子どもたちが様々なことを体験的に学ぶことができる環境づくりを進めていく。

3 研究期間

上記研究テーマ（１）・（２）については、２年間継続的に研究と実践に取り組み、最後に研究結果の発表を行うことにより、その成果の共有を行う。

（３）については、今年度の実施状況を踏まえ、効果を検証し、次年度以降の取組みを検討するとともに、実践事例の内容や研究成果について、各園に情報発信することで、各園の教育・保育内容の質の向上につなげていく。

4 モデル研究実施予定園数（令和４年５月２０日時点）

- （１）４学び舎
- （２）区立幼稚園・区立保育園・私立保育園各１園
- （３）区立幼稚園２園 区立保育園１園